

ERL 入射器における ビームダイナミクス

原研、光量子、FEL グループ 羽島 良一

第2回高周波電子銃研究会、2004年11月3-4日、SPring-8.



ERL 入射器に要求される性能

大電流 --- 平均電流 100mA 以上 (77pC x 1.3GHz = 100mA)
 規格化エミッタンスは 1mm-mrad 程度(小さいほどよい)

第3世代放射光と同程度の電流値(X線フラックス)を確保

 低エミッタンス --- 規格化エミッタンス 0.1mm-mrad 以下 電流は 10mA 程度(大きいほどよい)

1 ÅのX線がコヒーレントになる条件

 $\varepsilon_n/\gamma < \lambda/4\pi$

上記二つは、同時に達成されなくてもよい(切り替え運転)

● 電流、エミッタンスは、入射器で決まる

ERL 入射器の構成





- > 電子銃、入射加速器、収束磁石等からなる
- ▶ 電子バンチの特性(エミッタンス、バンチ長)は、merger 出口まで変化する
- ▶ 偏向磁石を含む = x-y 非対称のビームエンベロープ
- 上学的課題も存在 (本発表では触れない) カソード寿命、high-power coupler、HOM など



DC フォトカソード電子銃



T.Siggins et al., NIMA-475, 549 (2001)



http://www.jlab.org/accel/inj_group/btllpeg/Aug02.html

ビームダイナミクスの観点から

●大電流が可能 (Q.E.=10%, P_{laser}=1.6W → 100mA)

●小さな初期エミッタンス(熱エミッタンスが小さい)

●加速勾配、加速電圧の限界

●バンチ長の制約(吸収深さから >10ps)

●時間依存の電磁場がない(エミッタンス補償が容易)



超伝導 RF フォトカソード電子銃



I.Ben-Zvi et al., FEL-2004.



D.Janssen et al., FEL-2004.

ビームダイナミクスの観点から

 InC 程度の電荷量まで対応(電界~10MV/m)
 印加磁場に制約(超伝導状態の破壊)=エミッタンス補償に工夫が必要 端板の傾斜(収束電場)、TE-mode 励起(収束磁場)などの提案
 input-coupler, HOM-coupler による非軸対称性



ERL 入射器構成の選択

DC-photocathode gun

- 0.1mm-mrad を狙える唯一の候補 (NEA カソード利用可能)
- 熱エミッタンス:バンド構造と密接な関係
- 空間電荷(Er): ソレノイド磁場による補償(RF-gunと同様)
- バンチャーが必要: 15ps → 3ps

SRF-photocathode gun

- 1nC/1mm-mrad を狙える(DCより高い加速勾配)
- カソードは、CsTe や KCsSb など
- 平均電流の制約(レーザー出力、波長変換)
- ダイヤモンド薄膜による電子増倍の提案 (BNL)
 →アンペア級の平均電流が実現?

GaAs-NEA カソードの熱エミッタンス



- 1. photon absorption
- 2. diffusion, thermalization of electrons
- 3. approach to sufface (band-bending region) tunnel through the barrier to vacuume

$$\varepsilon = \sqrt{\langle x^2 \rangle \langle x'^2 \rangle} - \langle xx' \rangle^2$$
$$\varepsilon_{th} = \frac{r}{2} \sqrt{\frac{kT}{mc^2}}$$

 $r=1 \text{ mm}, kT=35 \text{ meV} \rightarrow \varepsilon_{th}=0.13 \text{ mm-mrad}$



投影エミッタンスの増大(Er)



位相平面における蝶ネクタイ状の変形 ソレノイド磁石によるエミッタンス補償が可能 B.E.Carlsten[1] 以来、多数の解析、実験 [1] NIMA-285, 313 (1989).

これらは、軸対称ビームを前提にしている

ERL 入射器合流部における、Er の効果 E=5 MeV, $I_p=5$ A, $\sigma_r=0.4$ mm として空間電荷が無視できるか? $\frac{I}{2I_0}\frac{\sigma_r^2}{\beta y} \ll \epsilon_{n,slice}^2$ ビームエンベロープが emittance-dominated になる条件 $2 \times 10^{-12} m^2 > 0.02 \times 10^{-12} m^2$ 空間電荷 (Er) の効果が無視できない つまり、非軸対称ビームの「蝶ネクタイ状変形」と「復元」を扱う必要がある リングにおける incoherent tune shift と似た現象







空間電荷ポテンシャルー定の近似のもと、線形解析が可能

ref. 羽島、加速器学会(2004)

$$x'' = -\frac{x}{\rho^2} + \frac{1}{\rho} (\delta_0 + \delta_{SC} - \kappa [s - s_0])$$
空間電荷効果

ー・ R-matrix 解析が使える $\vec{x}(s) = (x, x', \delta_0, \kappa L, \kappa)^T$ $\vec{x}(s_1) = R \vec{x}(s_0)$



投影エミッタンスの増大(Ez, CSR)

空間電荷分散関数の定義

$$\begin{pmatrix} \zeta_{x}(s_{1}) \\ \zeta'_{x}(s_{1}) \\ 0 \\ L(s_{1}) \\ 1 \end{pmatrix} = R_{0 \to 1} \begin{pmatrix} \zeta_{x}(s_{0}) \\ \zeta'_{x}(s_{0}) \\ 0 \\ L(s_{0}) \\ 1 \end{pmatrix}$$

スライス変位の広がり = ポテンシャルの広がり x 分散関数
$$(D, D') \equiv \kappa_{rms}(\zeta, \zeta')$$

 $\varepsilon^2 = (\varepsilon_0 \beta_r + D^2) (\varepsilon_0 \gamma_r + D'^2) - (\varepsilon_0 \alpha_r - DD')^2$

軌道中の任意位置におけるエミッタンス





投影エミッタンスは、ビームエンベロープ (α,β) に依存する 最適なエンベロープの存在 = envelope matching

設計例(Cornell ERL)





0

0

1

2

3

4

position (m)

77pC の計算 (ASTRA)

5

77pC で 1mm-mrad 7.7pC で 0.2mm-mrad

15MeV の時、空間電荷 (+5%) 、 CSR(+25%) のエミッタンス増大

7

8

6



▶二つのモードの両立

大電流モード: 77pC x 1.3GHz=100mA, ε_n =1mm-mrad コヒーレントモード: 7.7pC x 1.3GHz = 10mA, ε_n =0.1mm-mrad

▶電子銃電圧、入射加速エネルギー

→ 低いほどよい(工学的観点、経済的観点)

Cornell (750kV + 15MeV) 低くできないか?

バンチ圧縮とエミッタンス補償を同時に行う (超電導空洞には磁場をかけられない点も制約)

▶合流部に偏向磁石がある Ez、CSR → エミッタンス増大 (x,y) 非対称のビームエンベロープ → Q が必要



ERL 入射器の設計例

検討課題をふまえて、設計を行ってみる。

大電流モード: 77pC x 1.3GHz=100mA, ε_n =1mm-mrad コヒーレントモード: 7.7pC x 1.3GHz = 10mA, ε_n =0.1mm-mrad

●電子銃 500kV + 入射エネルギー 5MeV とする

●バンチ圧縮とエミッタンス補償の両立 多次元のパラメータ探査が容易に行える手法を提案

合流部におけるエミッタンス増大の抑制
 merger 構成の最適化と envelope matching

入射器の構成例







多次元パラメータ空間の探査





merger の最適化



浅い偏向角度と短いドリフトを 両立させる解

中央磁石にエッジ角を与える 異なる偏向角度の組み合わせる

合流部偏向磁石 15-22+15 = 8 deg.
エッジ角 -20 deg.
軌道半径 ρ=1 m
磁石間ドリフト 0.316m
R56 = 0.044m

cryomodule (\phi670mm) が干渉しない ぎりぎりの合流角度を選んだ

envelope matching (Ezの影響を最小に)









電荷量 77pC (100mA)

カソード面における初期値 電子温度(横方向) 35meV 空間分布:一様 r=1.5mm 熱エミッタンス 0.2 πmm-mrad 時間分布: Gaussian σ_t= 14ps

72MeV 加速(9-cell x 5 通過)位置で

 $\varepsilon_{n,x} = 0.75 \pi$ mm-mrad $\varepsilon_{n,y} = 0.76 \pi$ mm-mrad $\varepsilon_z = 38 \text{ deg-keV}, \sigma_t = 3.2 \text{ ps}$





Advanced Photon Research Center





低エミッタンスモードの電子分布(72MeV 位置)



低エミッタンスモード





まとめ



DC-photocathode gun を使った ERL 入射器について、

エミッタンス増大のメカニズムと抑制方法 最適設計の手法

を示した。

 大電流モード(100mA)、低エミッタンスモード(0.1mm-mrad)の 設計が可能なことを確認した(500kV+5MeVの構成)

• 手付かずの課題

- 軸対称を仮定しない空間電荷計算、
- CSR を含んだ start-to-end シミュレーション、
- 電子銃電極、RF 空洞形状の最適化など、